

インスピレーションになろう

BE THE INSPIRATION



国際ロータリー 第2550地区

宇都宮東ロータリークラブ会報

http://www.ri2550uerc.gr.jp/



会 長 五味 秀幸

幹 事 手塚 正智

会報・雑誌委員長 吉田 恭平

例会場 宇都宮市大通り2-4-6 ホテルニューイタヤ 例会日 毎週火曜日(12:30~) 事務局 宇都宮市東宿郷3-2-5-803 TEL.028-638-5125 FAX.028-638-5128

通算2813号 2018年11月13日(晴れ) 第19回例会 会員数122名 列席80名 出席率71.03%



点 鐘 五味 秀幸 会長
司 会 副SAA 小林(弘) 会員

◇国歌「君が代」

◇ロータリーソング「四つのテスト」

◇本日のランチ

海の幸入りカレー ライス サラダ



ビジター紹介 稲見副会長

◇来訪ロータリアン

3名(3クラブ) 累計26,494名

宇都宮陽東RC 橋本 正行 様

(第2550地区第3グループBガバナー補佐)

大田原中央RC 森本 敬三 様(卓話講師)

(第2550地区ロータリー財団委員会 委員長)

宇都宮陽北RC 熊倉 学 様

(第2550地区財団補助金委員会 委員長)

◇米山記念奨学生

チョンセンチャン カムニーサイ君

会長挨拶 五味 秀幸 会長

皆様、こんにちは。先週は地区大会の振替休会で本日が11月第1回の例会です。今月はロータリー財団月間で、RI第2550地区ロータリー財団委員会の森本敬三委員長に、昨年引き続きお越しいただきました。よろしくお願ひ致します。

ところで、去る11月10日、国際ロータリー第2550地区危機管理委員会主催の地区危機管理研修会に参加しました。地区の青少年交換との絡みで開催されました。ロータリーの活動に青少年が参加します。守らないといけないということで、セクハラ、自動車事故、テロに関する事、病気で帰国が困難になった件など、いろいろな事例がございました。何かありました時には管理委員会にご一報いただきたいとのことです。当クラブで

も青少年に関わる事業が多いので、計画をたてる時点では、そういうことも予測しながらやっていただきたいと思います。

◇R財団より認証状と襟ピンの授与

森本財団委員長から高野藤房会員へ

※ポール・ハリス・ソサエティ入会によるもの。



◇R財団より表彰

<マルチプルPHF>

金澤正邦会員(6回目)

旭 英幸会員(4回目)

◇(R)米山記念奨学会より表彰

<米山功労者>

メジャードナー 金澤正邦会員(11回目)

マルチプル 旭 英幸会員(7回目)

◇奨学金の授与

米山記念奨学生

チョンセンチャン カムニーサイ君



幹事報告

手塚幹事

◇ロータリーレート 11月は1ドル112円。

◇本日18時30分~ ホテルニューイタヤにて 五味 秀幸 年度第5回11月定例理事会開催。



委員会報告

◇スマイルボックス委員会

炭田委員

ロータリー財団委員長 森本敬三様

お世話になります。

第3グループBガバナー補佐 橋本正行様
地区大会は終わりましたがIMがございますのでまだまだお世話になります。

辻 裕司会員

地区大会ホームカミング事業ではお世話になりました。ソチアからお世話になりまして有難うございます、とのことでした。

◇親睦委員会 金子委員

<誕生祝い・11月>

会員誕生

青木 格次、船田 元、皆藤 美實、
松山 栄、佐々木 正、藪下 行平、
谷田部 修、小林 弘治 各会員

夫人誕生

秋元 吉博、五味渕秀幸、長谷川恭弘、
平野 利一、石田 裕之、松本 弘元、
野口 忠男、尾野崎孝夫、大塚 宏一、
齋藤 秀明、佐藤 克廣、轟 宗雄、
塚田 宗雄 各会員の奥様

◇ロータリー財団委員長 谷田部会員

ポール・ハリス・ソサエティについて

年次寄付やポリオ寄付等に毎年1000ドル以上をご寄付くださる方を認証するプログラムです。財団に継続的な支援を寄せてくださる寄付者の方々に感謝の気持ちを示すことを目的としています。当クラブでは羽石パストガバナー、宮下浩会員、そしてこの度、高野藤房会員が認証されました。この機会にポール・ハリス・ソサエティにもご関心を寄せていただければと思います。

※レターBOXにパンフレット配布



地区ロータリー財団卓話

「ロータリー財団について」

第2550地区ロータリー財団委員会

委員長 森本 敬三 様



皆様、こんにちは。本日は、お時間をいただき、ありがとうございます。私が思いますに、ロータリーとは職業奉仕を核として、人材育成と人道支援が主な活動だと思えます。その中で、ロータリー財団はそのための資金の提供をさせていただいているということになります。

— 資料に沿って説明 —

国際ロータリーのロータリー財団が正式名称です。ロータリー財団の使命は「ロータリアンが健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにする。」です。これは、国際ロータリーの使命と合致すると思えます。1917年にアーチ・克蘭フがアトランタ国際大会の場で「諸々の社会奉仕を今まで通りに実行していくには、慈善・教育・その他の社会奉仕の分野に於いて世界で良いことをするための基金を作るのが、極めて適切であると思われる。」と提案しました。1917年というのは、時代背景を考えなければいけないと思えます。ヨーロッパでは1914～18年の間、第1次世界大戦がありました。ヨーロッパ各国では多くの難民が発生し、人命が失われている中で、アメリカは農作物も豊富に実り、重工業もバブル経済の真っ盛りと言っても過言ではない状況でした。そのような時に、アーチ・克蘭フは弱い人達に少しでも救いの手を差し伸べようと提案しました。後にロータリー財団として正式に発足し、100年間、国際ロータリーの中でロータリー財団は取組んできました。多くのロータリアンが資金を提供し、その資金に基づいて、いろいろな人道支援を世界中のロータリアン、ロータリークラブが行なっています。

皆様をお願いしたいのは寄付でございます。寄付は2頁、3頁に記載されていますが、年次基金、恒久基金が主な基金で、使い方はグラフに示された通りです。また、国際ロータリーでは、ポリオの撲滅が最優先事項になっております。今年の6月の世界大会において、会長は、今後3年間、ポリオ撲滅に1億5千万ドルを拠出すると発表しております。そして、ビル&メリンダ・ゲイツ財団では、その2倍の上乗せをすると約束をしております。1985年から始まったポリオの撲滅運動も、ようやく2カ国になろうとしています。ナイジェリアは過去2年間発生0で、WHOから近々、安全宣言が出されると思われ、残すところはパキスタンとアフガニスタンです。発症桁数も2桁になり、33年間の努力の賜と思っております。

4頁に記載のあるロータリー平和センターは、人材育成のひとつです。紛争を無くすために、その担い手となる人材を育てています。世界中に門戸を開き募集しています。日本では国際基督教大学がその場として提供されています。人材の育成には時間がかかりますが、非常に大切なことで、財団が取組んでいるところです。補助金の種類には、地区補助金とグローバル補助金の二つの大きな柱があります。地区補助金は、クラブが地域の社会奉仕のために、社会奉仕委員会や青少年奉仕委員会が取組むプロジェクトに使っていただ

くものです。グローバル補助金は国際奉仕委員会が先頭に立って、姉妹クラブや提携クラブ等の外国のクラブと一緒に人道支援、人材育成のための活動に使っていただくものです。グローバル補助金には6つの重点項目がございます。

5頁には寄付の認証が記載されています。寄付の金額によって種類がございます。クラブとしての寄付の認証は6頁、7頁に記載があるので、お読みいただければと思います。最後の頁にロータリーカードの説明があります。このカードを使っておくと、利用額の0.3%がポリオ撲滅の資金になります。

ロータリー財団管理委員長のロン D バートン委員長が世界120万人上のロータリアンに向けた、月間に際してのメッセージがありますので、読ませていただきます。

「ロータリー財団の補助金を使ってロータリーが行う活動は、抽象的ではなく、人びとの人生に実質的な変化をもたらす本物の活動です。これらの活動は時に説明するのが難しいため、実際に目にするのがそれを知るための一番の方法です。実質的な変化をもたらす財団の力を理解したとき、財団を支援せずにはいられなくなるに違いありません。

1987年に私がガバナーに就任したとき、ロータリー最大規模のファンドレイジングキャンペーンが行われていました。これは、ポリオと闘うための資金を集めるためでした。当時、ポリオウイルスはかなり蔓延していました。1988年には、125カ国で35万件のポリオ症例が報告されていました。そしてその年、ロータリーとパートナー組織が「世界ポリオ撲滅推進活動（GPEI）」を立ち上げました。GPEIを通じたポリオ撲滅活動が功を奏し、撲滅において前進が見られ始めました。以来、ロータリーによる献身的な活動のおかげで、ポリオの症例は99.9%減少しました。私たちは今まさに歴史をつくっており、財団は真の変革の一部となっています。

また、財団はこのほかにも実にさまざまな方法で人びとの人生を変えています。グローバル補助金による安全な水の提供、地区補助金による子どもたちを対象とした識字率向上プロジェクトなどがその例です。今日ロータリーでは、自分たちの可能性を最大限に生かす意欲さえあれば、これまで以上に多くの機会を利用して世界を変えることができるのです。

ロータリー財団とは、グローバルな規模で素晴らしいことを成し遂げるための手段です。財団は今現在、私たちのために存在し、将来にも、才能ある献身的なロータリアンのために存在し続けます。私たちが今しっかりと活動を進めていけば、

未来のロータリアンたちがその時に発生している課題に取り組むための財源を残すことができるでしょう。

今日、そして明日の夢を現実にする方法は、財団への寄付です。真の慈善活動とは、寄付の額で判断されるものではなく、寄付者一人ひとりの経済的能力に沿った寄付で判断されるべきだと私は考えています。すべてのロータリアンが自分のできる範囲で寄付した場合に、ロータリーでできることを想像してみてください。

私たちロータリアンは、奉仕と恩返しを重んじるだけでなく、慎重に計画を立てます。ロータリー財団への寄付は、疑いの余地もなく賢い投資です。私たちの財団は10年以上連続で、その強固な財務の健全性、説明責任（アカウンタビリティ）と透明性が認められ、慈善団体の独立評価機関であるチャリティナビゲーターから最高の評価を得ています。

クラブや地区の全員がロータリー財団を支援するよう奨励し、世界における目に見える変化へのロータリーによるコミットメントを示しましょう。寄付の受益者に会うことはないかもしれませんが、寄付は確実に投資され、寄付がもたらすインパクトは現実のものであるのです。」

世界では21世紀の今日でも紛争が絶えない状況が続いており、弱い人達の命が失われているという現実がございます。シリア難民も冬を迎えようとしている中で厳しい状況に置かれている、と、UNHCRやWHOのホームページを見るとでています。また、日本ではなかなか報道されませんが、イエメンやコンゴの紛争などあり、やはり、人道支援は非常に重要なことだろうと思います。

次に、パキスタンでのポリオの現状を映像で見ただけであればと思います。

- ・2016年。爆弾テロで15名のボランティアが負傷。内2名の警察官が亡くなる。
- ・2014年。駅で子供を見つけてのワクチン投与。
- ・自動車を通る沿道で子供を見つけての投与。
- ・コンテナハウス（財団の寄付金を使用）に冷蔵庫を置いてポリオワクチンを保存。

こういう中で症例が2桁まで来ています。後わずかです。それにはやはり資金が必要です。日本事務局では、ポリオ寄付を一人30ドル、また、年次寄付は一人150ドルお願いしています。皆様の応援がなければ財団の活動が出来ないわけがございます。ロータリー財団へのご理解を何卒よろしくお願いいたします。